

徳島市都市計画マスタープラン策定 市民会議（第3回） 議事録（要約）

- と き** 令和4年1月21日（金） 午前10時～11時30分
- ところ** 徳島市役所13階 大会議室
- 議 事** (1) アンケート調査結果（最終報告）について【市民・事業所・大学生】
(2) 市民ワークショップ（地域別意見交換会）第1回の開催結果及び第2回の開催について
- 出席者** ・ 委員15人（奥嶋会長、佐々木副会長、東委員、井上委員（代理：村上氏）、岡山委員、小川委員、柏原委員、黒田委員、高源委員、島田委員、鈴江委員、瀬戸委員、辻岡委員、板東委員、松崎委員）
・ 事務局10人（企画政策部都市計画課）
・ 傍聴1人

1 アンケート調査結果（最終報告）について【市民・事業所・大学生】

委員

八万・勝占地域では、満足度・改善度が低い評価となっている。この原因として、30代、40代の子育て世代の回答者が多く、その視点での評価が低くなっていると思う。

また、課題の内容は、地域によって差異がある。地域ごとに必要な改善を行うことが、徳島市全体での安全・安心なまちづくりにつながると思う。

災害時の避難場所の把握状況では、地域ごとに差異がある。まちなかで避難場所を案内する掲示物はよく見られるが、その地点の災害のリスクを表示した掲示物は少ない。住民や、その場所を訪れた人も、災害のリスクが目に見えるようにする必要がある。

会長

災害リスクの喚起は難しいが、重要な課題である。

委員

観光客目線での意見だが、徳島市を訪れて移動がしやすいこと、公共交通が充実していることが重要である。アンケートでは、鉄道・バスに対する満足度が低い。この評価を変える方策が必要である。JRは3月の改正でパターンダイヤを導入することが示されていたり、バスについては、とくしまバスNavi「いまドコなん」のアプリを使えば、便利であったりするが、市民が知らない。公共交通が便利になってきていることをPRする必要がある。

会長

バスについては、利便性の向上・改善が進んでいるが、市民がバスを使っていないため、周知が課題である。

委員

自由意見で、市街化調整区域の規制が厳しいとの意見があるが、徳島市が特に規制が厳しいわけではない。法律に基づいて行われているものであり、徳島市だけが厳しいのではないということを、市民にアピールすることが必要。

また、まちなかの駐車場が無料であればよいとの意見があるが、駐車料金を支払ってでも行ってみたいと思わせるまちづくりが必要である。まちなかに魅力があれば、駐車料金を払ってでも行くはずである。

駐車料金が無料でなければ人が来ないという負のスパイラルに陥っていくのではなく、最終的にプランに記すときは、プラスの表現で記載するよう考えてほしい。

委員

災害の危険性の高いエリアでの将来の引越しの意向は、津波を意識して回答しており、洪水を意識していないと思う。

徳島市民は、どちらかというとな津波を意識しすぎて、洪水に対する意識も重要である。

委員

大学生アンケートでは、県外出身の大学生の70%超（県外×市内）が、卒業後に徳島市外に転出するとの結果になっている。まちづくりには、若い人が参加し、地域への貢献が必要である。どうして住み続けたくないのかという分析が必要である。

会長

資料の中では、委員の指摘の部分について分析が記載されている。しかし、サンプル数の問題もあり、はっきりと原因を書きにくい部分もある。

委員

例えば、卒業後の就職口があれば、徳島市に住み続けたいといった深く掘り下げた分析ができないか。

事務局

住み続けたくない人の満足度が低い項目は、「図書館・美術館等の文化施設の充実」である。また、「働く場の確保や多様な業種の誘致」に対する満足度も比較的低い。さらに、「防犯対策の充実」、「徳島市の良さに関する情報発信・PR活動」に対する満足度も低い。こうした施策に力を入れていくことが重要と考えている。

また、重要度の評価から見ると、住み続けたくない人が重要視している項目は、「娯楽・遊戯施設の充実」と「通勤・通学のための交通機関の充実」である。これについても重点的に取り組むことが必要と考えている。

会長

大学側でも、県内での就職プロジェクトに力を入れているが、県外出身の学生は、卒業後、大都市に向かう傾向があり、そのことが課題である。

委員

バスは、以前よりも利便性が向上しており、もっと市民に対する周知が必要である。

また、自転車を利用して感じることは、通行空間が狭いことである。自転車が快適に通行できるよう改善してほしい。

また、徳島駅前のバスが出入りする区間の車道の白線が消えている。道路の維持・更新をお願いしたい。自転車での交通事故が起りかねない道路も多いと思う。車の交通渋滞も問題であり、対策が難しいと思うが、どうかしてほしい。

会長

バスの利便性向上の周知が重要であることは、指摘のとおりである。また、自転車の通行空間の改善については、そのための道路整備が課題である。

委員

自転車での車道の走行は危険を感じる。自転車については、無料駐輪場があるとよい。そうすれば自転車を使う人も増える。

会長

道路の整備は、費用の確保が課題である。渋滞の問題は、環状線（環状道路）ができると思消される面もある。加えて公共交通を充実することも必要である。

2 市民ワークショップ（地域別意見交換会）第1回の開催結果及び第2回の開催について

委員

ワークショップへの10代、20代、30代の参加者が少ない。若い人の意見を反映するためにも、更に広報等で参加を促してほしい。

委員

平日夜の開催の場合、子育て中のお母さんは参加することが難しい。リモートで参加できる環境があるとよい。色々と工夫をお願いしたい。

事務局

若い人の参加促進は、課題であると認識している。ワークショップの開催にあたり、地域の実情に詳しい人などの参加を募ったこともあり、結果として高齢の人の参加が多くなっている。

今後の課題として、引き続き検討していきたい。

委員

私もワークショップに参加した。「大型スーパーがない」との意見がある一方、「周辺に大型店がたくさんあるため、生活に便利」との意見もあり、矛盾がみられる。また、コミュニティ活動が行われていないとの意見があったが、最近は新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントが少なくなっている。

会長

資料の青色、赤色、緑色の部分が、ワークショップで出た意見で、黄色の部分が事務局においてワークショップでの意見を集約したものという理解でよいか。

事務局

そのとおりである。黄色の部分は、「地域のまちづくりの方向性」の案として事務局で整理したものである。

2回目のワークショップでは、1回目のワークショップの振り返りを行うこととしており、その際に出た意見交換の結果を踏まえて、本日、お示した資料の修正を行う。

委員

ワークショップにおける若年層の参加について、大学として協力できないかと考えている。相談してくれれば対応できる。

また、アンケート結果等の資料を見ると、さまざまな地域で、さまざまな課題がある。例えば、中心市街地の魅力が減ると郊外に住む人が増え、その結果、自家用車利用が増え、中心市街地は駐車場が少ないため、にぎわいが下火になっていく流れになる。

対策としては、自転車の利用促進が挙げられる。また、バスやJRを使うインセンティブの付与、利用促進に向けた情報発信の改善などが重要である。

事務局

今回、ワークショップで少ない若い世代の意見は、大学生アンケートの結果で補うこととしている。まちづくりに若者の参加を促進することは重要な課題であると認識しており、継続して検討していきたい。

委員

新町地区では、まちなかが暗く不安である。市街地は街灯が暗く、明るくしてほしいとの要望がある。また、以前の話であるが、自転車競技で全国上位レベルの人たちが、公園で練習をしていた。しかし、公園に照明が設置されないため、今はその公園で練習していない。自転車競技を観光等の地域活性化の資源として育てていける可能性もあったかと思うと残念である。イベントを開催すると人が集まる。いろいろなイベントを開催すると活性化する。

委員

照明については、過去の経緯があって、LEDフェスティバルの時に作品がよく見えるように、暗めにしていると聞いたことがある。水際公園辺りは、色々なLEDを照らしているため、あえて暗めにしているのではないか。

委員

そのような対応は、水際公園辺りだけでよいのではないか。まち全体が暗い。街灯が設置されていても点灯していないこともある。

事務局

街灯に関する委員のご意見については、関係部局に伝えたい。

委員

ワークショップでは、交通が不便だという地区が多いが、交通アクセスがよいとの地区の意見もある。その結果を交通部署と共有し、何をもって良いと述べているのかを把握し、これからの運営に活かしていきたい。

委員

子育て世代の参加については、「すきっぷ」として参加を促すことができたが、今回のワークショップについては、開催があることを知らなかった。知っていれば、お母さんたちの意見も出せたのに残念である。

ワークショップの意見で、アーケードに関するマイナスイメージの指摘がある。アーケードは、5年程前から人が通らなくなり、車がスピードを出して走行している状況で危険である。

一方、頑張っている事業者もいて、魅力がある店舗では、「すきっぷ」に来るお母さんたちも駐車場料金を支払ってでも利用している。魅力ある新町商店街を目指したい。

会長

今の意見は、新町のまちづくりに反映してもらえるとよい。

事務局

ワークショップを補足する意見をいただいたので検討し反映したい。今回、ワークショップの開催案内は、市の広報のほかに地域のコミュニティ協議会等を通じても出したのだが、「すきっぷ」をはじめ、個別の団体には案内しておらず、申し訳なく思う。今後は、子育て世代が参加できる方策を考えたい。

以上